

箕面市教育大綱別紙＜2022＞

学校教育 子どもたちの「生きる力」と「つながる力」を育みます

① 英語教育の強化によるグローバル人材の育成

外国人の英語指導助手をすべての小学校に3～5人ずつ、中学校に3～4人ずつ配置する全76人体制を目指すとともに英語専科加配を全14小学校に配置する。これらの体制を活用して、チームティーチングや1クラスを分割した少人数での英語活動を行い、児童生徒に高い英語力を習得させる。さらに、多文化理解も深めながら、英語で自分の考えを表現する実践的なコミュニケーション能力の基礎を築く。

② ICTを活用した情報活用能力の向上

1人1台のタブレット端末を円滑にストレスを感じることがなく活用できるよう校内ネットワーク環境の拡充に努め、オンライン授業のさらなる充実・工夫を図る。また、デジタルドリルを活用した個別最適化学習や持ち帰り学習などの取り組みを引き続き進め、子どもたちの資質・能力を一層確実に育成する。また、これまでに蓄積してきた個々の学びのデータを分析し、学習支援に活用する。

③ 体力向上を図る取り組み

副読本・指導書を活用した体育授業から運動に対する意欲を高める取り組みや、小・中学校の箕面子どもステップアップ調査の分析結果を活用して、体を動かすことが大好きな子どもを育てていく。また、熱中症対策をしたうえで夏季の運動機会の確保に努め、児童生徒の体力向上を図る。

④ 小中一貫教育のさらなる推進

9年間の連続性のあるカリキュラムの策定や連携型小中一貫教育の推進に向け、小中学校間を一体化した人事配置をより一層進める。

⑤ 教員の授業力・指導力のさらなる向上

授業力、指導力が傑出している教育専門監(指導員)を市費で配置し、訪問校の教員を直接指導するとともに、全小学校の若手教員を指導する中堅教員に指導助言することで、教員の授業力・指導力の向上を図る。また、ステップアップ調査等のデータを分析し、教育専門監の増員や中学校への新たな配置に向けて育成に努める。

⑥ 35人学級の早期実現

国の動きに先駆けて、令和4年度に小学校4年生を35人学級とし、1年前倒しで令和6年度までに順次、全学年へ拡大することで、きめ細かな指導体制・環境整備を早期に構築する。

⑦ 児童生徒を誰ひとり取り残さない支援

学校になじめない、学習についていけない、病気等による長期欠席、生活困窮家庭及び日本語を母語としないなどの児童生徒において、必要となる学習手段や居場所づくり等の支援を実施する。また、いじめの未然防止や支援教育の見直し、充実に向けた取り組みを強力に進める。

⑧ 持続可能な社会に向けた学習の充実

新型コロナウイルス感染症対策として、引き続き学校教育に新しい生活様式を取り入れていく。また、SDGsの17の目標を実現していくために、これから社会の主役となる子どもたちが自ら考え、行動できる学びの充実を図る。



子育て施策 家庭・学校園所・地域で「つながる力」を育みます

① 豊かな人間力を育むための子育て支援

子どもの権利擁護やすこやかな心身の成長の観点から、体罰によらない安心・安全な子育ての啓発や、すべての妊産婦・子どもとその保護者を対象に、個別のニーズ・課題に応じたワンストップの支援を充実・強化する。

② 貧困の連鎖の根絶

子ども成長見守りシステムのデータや教育・福祉等の関係機関の情報をもとに、支援が必要な子どもを誰ひとり取り残さないよう、教育委員会、学校、各種機関が連携して早期発見に努め、子どもたちを支援し見守りを続けていく。

③ 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援

子育て世代包括支援センターを拠点として、妊娠届をきっかけに、すべての妊産婦や子育て中の保護者に対して、安心・安全ですこやかな妊娠・出産を支援するとともに、その後の子育て期へと切れ目のないサポートを目指す。

④ すべての子どもが安心できる幼児教育の実施

市内保育士・幼稚園教諭・保育教諭の子ども理解力・実践力・連携力の向上を図るとともに、すべての子どもが安心できる就学前教育保育・支援教育保育のあり方を研究するため、公立・私立を問わず、人材開発及びインクルーシブに関する調査研究等を実施する(仮称)箕面市幼児教育センターを2022年度中に設置する。

⑤ 子育て支援と外出促進

子育て中の保護者が、どんなことでも気軽に相談できるよう、ICTを活用し、相談体制を整える。また、子育て世代の親子が孤独感なく日々過ごすことができるように、地域とのつながりをつくる機会として、気軽に集える、過ごせる場を数多く設ける。

市内公園においては、「幼児ユニット」を設置し、交流を促進する環境を整える。

生涯学習・社会教育 「いつでも・どこでも・だれでも、学びたいことを学ぶ」を育みます

① スポーツを通じた健康長寿への取り組み

乳幼児から若者、高齢者に至るまで、すべての世代の人たちが世代を超えて気軽にダンスや体操などスポーツを楽しめるよう運動機会の充実を図り、運動習慣の定着と体力向上を目指す。特に、就職や子育てを機に、スポーツから遠ざかっている方々がスポーツを再開し、無理なく続けていけるよう、身近な地域で気軽に参加できる環境を整備するとともに、積極的な情報発信に努める。

利用者が気持ちよく安全にプレーできる環境を確保するため、体育施設の整備、備品維持管理に努める。

② 図書館サービスの充実

社会のデジタル化進展を活かし、来館しなくても図書を利用できる電子図書館の活用について、学校教育や「はじめてのスマートフォン体験講座」などを通じて推進する。乳幼児から高齢者まで誰もが利用しやすい公共図書館づくりを進める。



③ 生涯学習の場の充実

船場生涯学習センター、船場図書館、文化芸能劇場を活用した国際理解の推進、文化芸能活動の振興など、大阪大学との連携協力をしながら、社会のデジタル化も踏まえて生涯学習の場を充実する。

魅力ある史跡の保護・復旧を実施していくとともに、史跡巡りのイベントを関係団体や民間企業と連携しながら開催する。